

- ・健康でたくましい子
- ・豊かな心、思いやりのある子
- ・よく考え、学び合う子



2学期スタート



長かった夏休みが終わり、学校に子どもたちが戻ってきました。自分だけの時間わりを考えて、自分だけの夏休みを過ごすことができたでしょうか。今年の夏は猛暑だけでなく、地震、大雨など自然災害が続く、不安な気持ちになることもありました。日本だけでなく、地球規模でさまざまなことが起こって、私は「生きている地球」へ畏怖の念を抱き、人間の小ささを実感する夏でした。

それぞれの自分なりの夏休みが終わり、2学期がスタートしました。2学期は学校行事がたくさんあります。友だちとともに経験を重ねていく中で、「自分のよさ」「友だちのよさ」「自分と友だちとの違い」を見つけ、互いに高め合っていてほしいと思います。



夏休み中のことを一つご紹介します。



8月、6年生の児童1人が海老名市代表の「豆記者」となり、他校の児童とともに、姉妹都市提携をしている北海道登別市を訪問しました。千歳空港に到着し、北海道の涼しい風を感じながら、バスで登別市へ。宮城県白石市の小学生訪問団と合流し、登別マリンパークニクスや地獄谷を見学。夕食後は登別市の子どもたちとカードゲーム（人狼）をして楽しんだそうです。2日目は幌別西小学校で学校交流。代表として、海老名市の魅力を紹介しました。準備や事前練習の成果を発揮し、チームワークよく発表できたとのことでした。2日間、お疲れさまでした！



「自尊感情」を育てる



「自尊感情」という言葉を耳にされたことはありますか？

自尊感情は、そのままの自分を大切な存在と思える「基本的自尊感情」と、社会の中で自分に価値があると思える「社会的自尊感情」という2つの側面があるといわれています（近藤 卓『子どもの自尊感情をどう育てるか』ほんの森出版：2013）。そしてこの2つの自尊感情をバランスよく育てていくことが、心の安定を保ち、自分らしく生きていくためにとても大切だと思っています。

また、その自尊感情が土台となり、他者理解、多様性の尊重につながっていくと考えます。「わたしはわたしのままでいい」と自分を認められるからこそ、「みんな違ってみんないい」と思えるようになるのではないのでしょうか。

学校生活の中で、柏ヶ谷小学校の子どもたちに「自尊感情」を育てていきたい。基本的自尊感情は、活動や感情を自分以外の他者とともに分かち合う体験をとおり、「自分は自分」「自分に価値がある」と感じ、育まれると言われています。また、社会的自尊感情は、誰かから認められたり褒められたりする体験などにより、「自分にもできることがある」「自分は役に立つ」といったことを感じて育まれていくのだそうです。

子どもたちが活動や感情を友だちと分かち合い、誰かから認められたりする体験は、日常の学校生活を集団で過ごす中で繰り返されていきます。さらに2学期は、運動会と音楽発表会という大きな学校行事があり、日常では味わえない体験をするチャンスもあります。日々の教育活動と、学校行事に向かう取り組みとおして、子どもたちの自尊感情を育てていけるよう、精一杯指導・支援していきますので、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。



来年、横浜で開催が予定されている「GREEN×EXPO 2027（2027年国際園芸博覧会）」に、校外学習として全校で行くことになりました（令和9年5月ごろ予定）。詳細はわかり次第お知らせいたします。楽しみですね。